

飛鳥・奈良・平安時代の遺跡

① ^{あまいけ}天池C遺跡 飛鳥時代～奈良時代（7世紀前半～8世紀前半）

北陸自動車道小杉I.C南東の標高約25～45m、幅約30mの丘陵谷筋斜面から、須恵器（古墳時代に朝鮮半島から伝わった、窯を用いて焼かれたねずみ色の素焼きの陶器）を焼いた窯跡2基・炭焼窯跡19基・製鉄炉跡17基や、作業場と考えられる掘立柱建物跡が見つかりました。

2基の須恵器窯は重複して見つかっており、7世紀前半に窯を築いて操業し、8世紀前半に修復して再利用されました。坏・甕・壺など20種類余りの製品が生産されており、なかでも大甕の出来栄には驚かされます。

射水丘陵は、飛鳥時代から平安時代にかけての須恵器窯・炭焼窯・製鉄炉が集中する古代越中最大規模の生産地であり、国衙や郡衙の管理下に置かれた官営工房の役割を担っていたと考えられます。



須恵器窯跡



須恵器

② ^{こすぎまるやま}小杉丸山遺跡【国指定史跡】 飛鳥時代（7世紀後半）

射水丘陵の南西部に位置する飛鳥時代の遺跡です。昭和56～60年（1981～85）に行われた発掘調査では、北陸地方最古の瓦陶兼業窯跡（瓦と須恵器を焼いた窯）や、須恵器窯跡・炭焼窯跡・製鉄炉跡・工房跡・工人の住居跡などが見つかりました。

当時の窯業生産の全貌を知ることができる遺跡であり、また、高岡市伏木の寺院跡「御亭角遺跡」において小杉丸山遺跡で焼かれた瓦が出土していることから、この遺跡が古代越中国府付近への瓦の供給を担っていたことが明らかになっています。現地にはガイダンス施設があり、古代の窯業の様子を学ぶことができます。



小杉丸山遺跡



瓦と須恵器

③ ^{きたたかき}北高木遺跡 奈良時代～平安時代（8世紀後半～9世紀後半）

旧神楽川の左岸に位置する奈良・平安時代の遺跡です。掘立柱建物跡・井戸跡・溝が見つかりました。溝からは、齋串・人形・馬形などの木製品や、墨で人の顔を描いた人面墨書土器などが出土しており、この場所で祭祀が行われたことを示しています。奈良・平安時代には、



発掘調査区近景（西から）



人面墨書土器

疫病・飢饉・干ばつ・地震などの厄災を取り除くため、国家的な祭祀が行われました。

出土した祭祀関連の遺物は、都で行われた祭祀と共通するものです。また、人名や施設名を記した墨書土器や、当時の税制を示す出挙木簡^{すいこもっかん}、草木や動物を描いた版木^{はんぎ}なども出土しており、北高木遺跡は、荘園関連施設や公的な施設であったと考えられます。

④ ^{あかんだいち}赤田 I 遺跡 奈良時代～平安時代（8～10 世紀）

下条川の右岸に位置する奈良・平安時代の遺跡です。溝・土坑・掘立柱建物跡などが発見されており、平安時代の大溝からは、須恵器・土師器・緑釉陶器（尾張産・京都洛北産）などの土器、祭祀に関する齋串などの木製品などが多量に出土しました。土器の中には、墨で文字を書かれたものも多く、「草仮名^{そうがな}」と呼ばれる



平安時代の大溝



草仮名墨書土器

万葉仮名から平仮名への移行期の文字が記された「草仮名墨書土器」が含まれていました。祭祀に関する木製品や饗宴に使われた多量の埴、高級品である緑釉陶器がまとまって出土したこの溝を用いて、^{きまぐすい}曲水の宴^{えん}などが催されていたと考えられています。



飛鳥・奈良・平安時代の主な遺跡

【お問い合わせ先】

射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 文化財係

TEL : 0766-51-6637 FAX : 0766-51-6663

E-mail : bunkazai@city.imizu.lg.jp

射水市埋蔵文化財センター

TEL・FAX : 0766-55-2238